



## ネマキック粒剤で 「根のコブが減り、しおれも減った」 根の健全性確保に寄与

群馬県館林市 **石塚栄一さん** <きゅうり> 2013年

促制裁培、抑制裁培ともに盛んで全国トップクラスのキュウリ産地、群馬県。長年、キュウリを栽培し、ハウスで年間を通じた栽培・出荷体系を確立する、館林市の石塚栄一さん（取材当時60）は、「生育後半まで樹勢を保つ上で、根の健全性が欠かせない」と話し、線虫防除対策の一環で「ネマキック粒剤」を使用している。

同市を含む1市5町を管内とするJA邑楽館林では「ハイグリーン21」や「めぐみの風」などのキュウリを栽培する。キュウリは地域の基幹作物。そうした産地にあって石塚さんは「質・量ともに常に向上意欲があり、管内でも技術力の高い生産者の一人」（JAの担当者）だ。

石塚さんは約40アールで周年で栽培する。根の健全性を重視し、線虫防除は特に気を使っており、夏場には土壌還元消毒や、土壌消毒剤「D-D」を処理し、定植直前に粒状線虫防除剤を処理している。また、かん水の回数やタイミングを工夫して線虫の活性化を防いでいる。

最近では作型の間隔をこれまでより少し長めに調整するなどさまざまな対策を組み合わせ、高収量・高品質を確保しつつ、より効果の高い防除を目指し続けている。JAの勧めもあり粒状線虫防除剤を「ネマキック粒剤」に切替えてからは、「根のコブが明らかに減り、しおれも減った」と語る。

施設のキュウリ栽培に長く携わり、「昔はひどくコブに悩まされてきた」と語る石塚さんにとって、「いろんな形で、いづらかでも線虫を抑えたい」という気持ちは強い。そのため新しい薬剤へのアンテナも高く、「ネマキック粒剤」を「今後も使い続けたい」と話している。

